

戦後の研究所員

戦後、登戸研究所の関係者は（「七三一部隊」と同じく）誰も戦犯にならなかった。第三科の関係者では、科長の山本大佐を含め10数人の所員が米軍横須賀基地で働いたり、渡米して米軍に協力したりしている。第三科の偽造技術を生かして、中共や北朝鮮・ソ連などの軍隊手帳、身分証明書などの偽造に協力していた。登戸研究所の技術が朝鮮戦争に役立ち、その技術のギブアンドテイクにより登戸研究所員は戦犯とならなかったのである。

また、第二科の「対植物兵器」がベトナム戦争の「枯れ葉剤」に発展していったのかもしれない。

ABC兵器

原子兵器 (Atomic weapons)

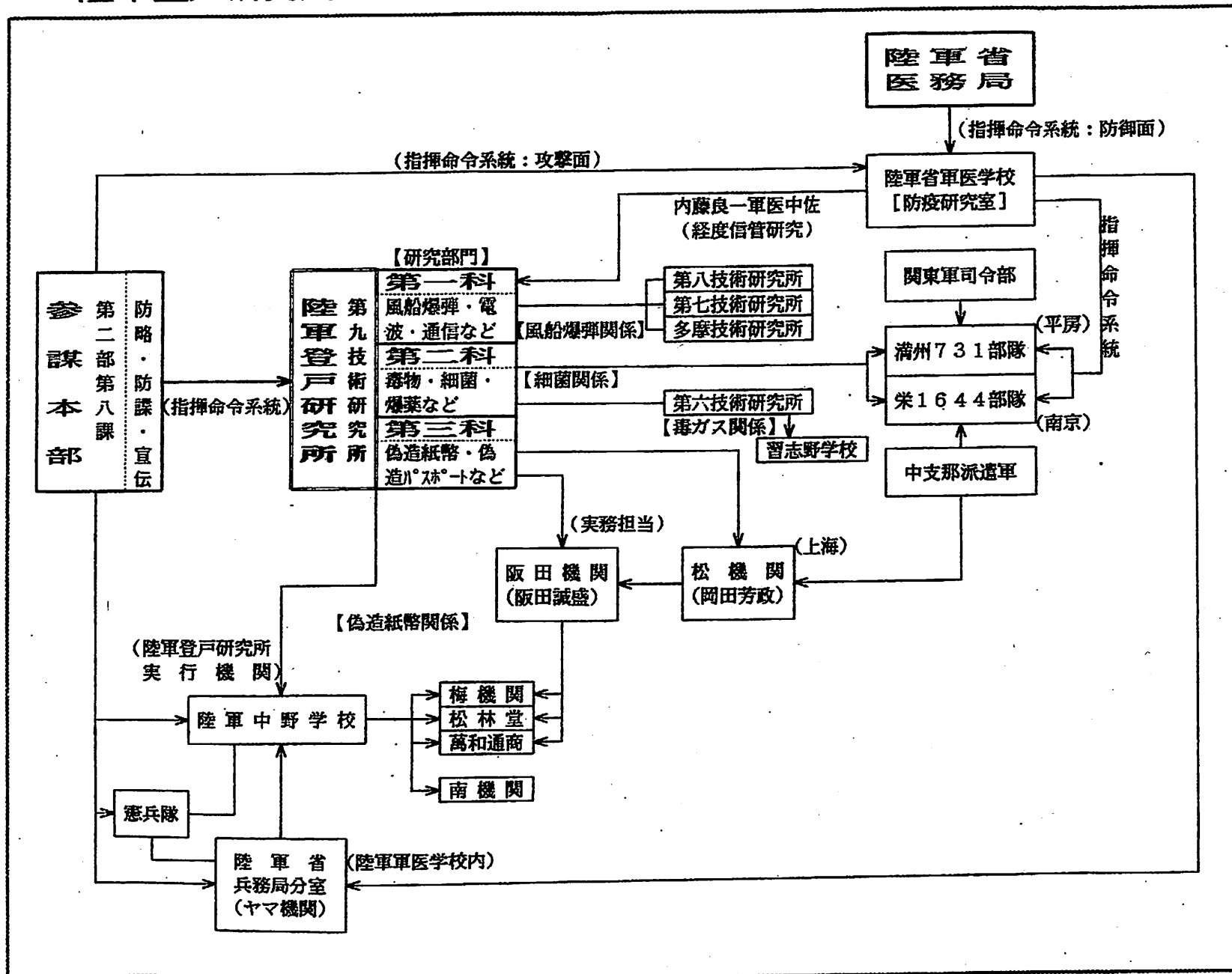
生物兵器 (Biological weapons)

化学兵器 (Chemical weapons) をABC兵器と呼ぶ

1925 (大正 14) 年に、ジュネーブで調印された毒ガス、細菌兵器の戦時使用禁止の議定書に日本もアメリカも調印していない

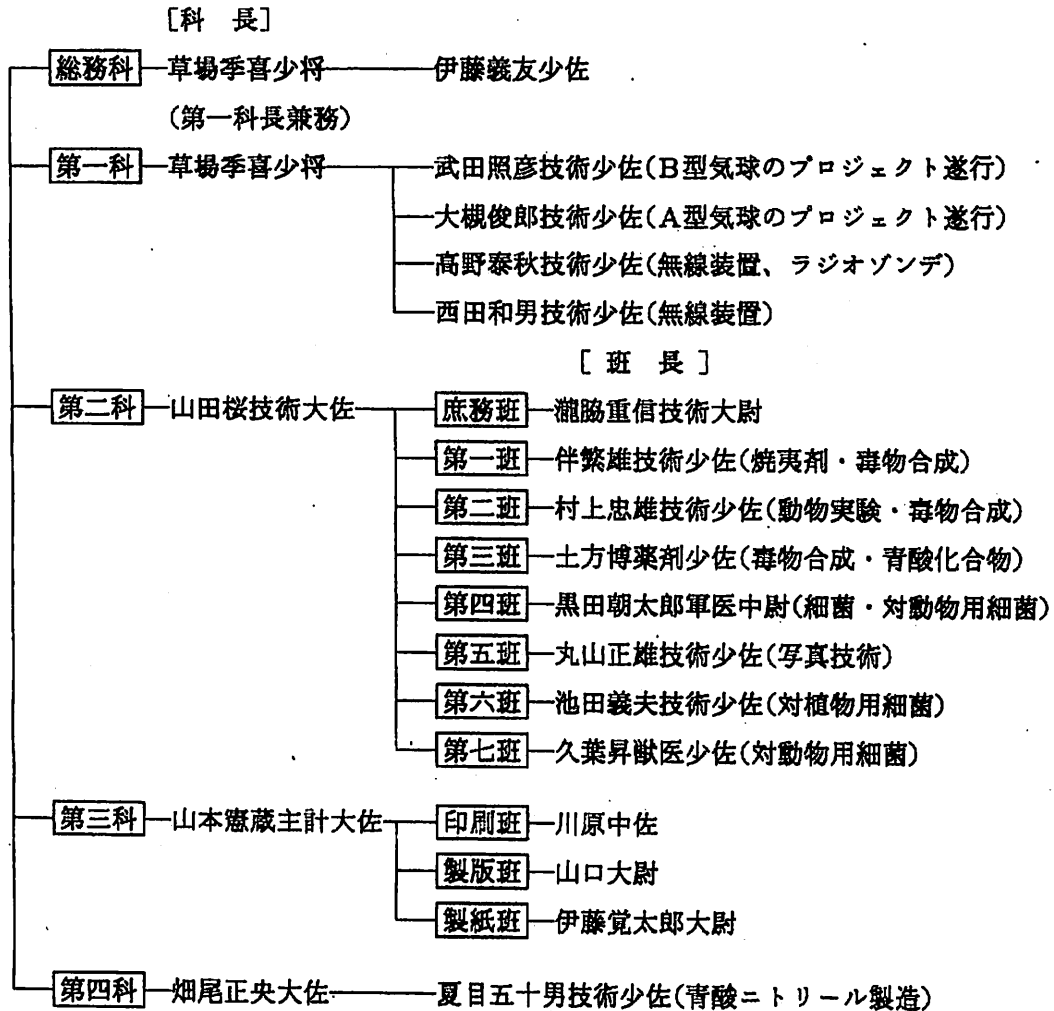
陸軍登戸研究所と主な機関の関係図

(作図：赤穂高校 木下健蔵)



1945(昭和20)年当時の陸軍登戸研究所の組織

陸軍第九技術研究所(陸軍登戸研究所) 所長 篠田録中将



(鈴木俊平『風船爆弾』新潮社/斎藤充功『謀略戦・ドキュメント陸軍登戸研究所』時事通信社/川崎市中原平和教育学級編『私の街から戦争が見えた』教育史料出版会/伴繁雄提供「登戸研究所の秘密」「陸軍登戸研究所の思い出」より作成)

表1 登戸研究所の嘱託研究者

【主務嘱託】

氏名	本職・本来の職業	学位	任命年月日	扱	研究事項	兼務	
林 重憲	京大工学部教授	工博	昭11.1.21	奏扱	登四号	五研	
矢野 道也	内閣印刷局技師	工博	昭13.4.1	奏扱	登三号		
松本 純三	内閣印刷局技師		昭13.4.1	奏扱	登三号		
菅沢 重彦	東大医学部教授	薬博	昭14.4.1	奏扱	登三号		
勝沼 六郎	名大医学部教授	医博	昭14.4.17	奏扱	登三号		
浅見 義弘	北大工学部教授	工博	昭14.7.20	奏扱	登一号		
宇田新太郎	東北大工学部教授	工博	昭15.4.30	奏扱	登四号		
漆原 義之	東大理学部教授	理博	昭15.3.14	奏扱	登三号		
蓑島 高	北大医学部教授	医博	昭15.3.31	奏扱	登一号		
川島 秀雄	農林省獣疫調査所技師		昭15.5.6	奏扱	登三号		
上野 繁蔵	東工大染料化学科教授	理博	昭15.8.1	奏扱	登四号		
長尾不二夫	京大工学部教授	工博	昭15.8.14	奏扱	団体燃料機関の研究		三研
植月 皓	阪大理学部講師		昭15.11.11	奏扱	登四号	八研	
鈴木桃太郎	都立高工校教授		昭16.7.31	奏扱	登一号		
藍野 祐久	東大農学部講師		昭16.11.11	奏扱	登三号		
堀 義路	藤原工大応用化学科教授		昭17.1.31	奏扱	登二号		
浦本政三郎	東京慈恵会医科大学教授	医博	昭17.8.31	奏扱	登四号		
内田 亨	北大医学部教授	理博	昭17.8.31	奏扱	登三号		
高木 誠司	京大医学部教授	薬博	昭17.8.31	奏扱	登三号		
上田 武雄	京大医学部助教授	薬博	昭17.8.31	奏扱	登三号		
神田 英蔵	東北大助教授	理博	昭18.6.15	奏扱	登二号		
林 清	川西機械製作所技師		昭18.7.24	奏扱	登一号		
河田 源三	服部時計店技師長		昭18.7.24	奏扱	登二号		
草野 俊助	東大農学部名誉教授	理博	昭18.7.24	奏扱	登三号		
原 三郎	東医専教授	医博	昭18.7.24	奏扱	登四号		
鏑木外岐雄	東大農学部教授	理博	昭18.8.2	奏扱	登三号		
山本 祐徳	東大工学部教授	工博	昭18.8.2	奏扱	登三号		
植村 琢	東工大教授	理博	昭18.8.2	奏扱	登四号		
安保 壽	北大医学部教授	医博	昭18.8.2				
中宮 次郎	理研技師	農博	昭18.8.14	奏扱	登四号	二研	
豊田堅三郎	航研技師		昭18.9.30	奏扱	登二号		
酒井 敏一	彫刻師		昭18.11.27	奏扱	登三号		
田中 正道	芝浦電気参事		昭18.12.7	奏扱	登四号		
中村 哲哉	農林省獣疫調査所技師	農博	昭18.12.7	奏扱	登三号		
中田 幾久	凸版印刷株式会社技師		昭18.12.15	奏扱	登三号		
田中 丑雄	東大農学部教授	農博	昭19.1.17	奏扱	登三号		
池田 博	東大農学部農芸化学科副 手 理研副研究員		昭19.2.1	奏扱	登三号		
斉藤 幸男	東工大助教授	工博	昭19.1.17	奏扱	登一号		
							六研

伊佐山伊三郎	朝鮮総督府家畜衛生研究所長		昭19.5.1	奏扱	登三号	
中村 稔治	朝鮮総督府家畜衛生研究所技師	農博	昭19.5.1	奏扱	登三号	
大久保準三	東北大教授 科学計測研究所長		昭19.5.1	奏扱	鑑四号	
青木 豊蔵	株式会社大信社取締役 養蜂社養蜂学講師		昭19.6.1	奏扱	登三号	
荒川 秀俊	中央气象台技師		昭19.5.1	奏扱	登二号	
佐々木達治郎	東大工学部教授 航空研究所所員		昭19.5.1	奏扱	登二号	
淵 秀隆	中央气象台技師		昭19.5.1	奏扱	登二号	
西田 彰三	小樽経済専門学校講師		昭19.5.1	奏扱	登二号	
大倉 東一	東京都衛生技師		昭19.5.1	奏扱	登二号	
多田 潔	横河電気製作所技師		昭19.5.1	奏扱	登二号	
松岡 茂	東北大医学部助教授	医博	昭19.8.1	奏扱	登一号	
田中 元	朝鮮総督府技師		昭19.11.1	奏扱	登三号	
杉野目晴貞	北大理学部教授	理博	昭19.11.1	奏扱	登三号	
門倉 則之	日本精密機械電気株式会社技術部長	工博	昭19.12.1	奏扱	登一号	

【兼務属七】

氏名	本職・本来の職業	学位	発令年月日	扱	研究事項	兼務
永井雄三郎	兵器行政本部		昭19.2.1		登三号	四研
鳥養利三郎			昭19.2.1		団体燃料機関の研究	四研
八木 秀次			昭19.2.1		登二号	
沢井 郁太			昭19.2.1		団体燃料機関の研究	二研
前田 憲一			昭19.2.1		登四号	五研
尾形輝太郎			昭19.2.1		登三号	七研
富永 斉			昭19.4.21		登三号	八研
大槻 虎男			昭19.7.12		登二号	二研
千谷 利三			昭19.7.12		登二号	六研
藤原 咲平			昭19.7.12		登二号	六研
真島 正市			昭19.7.12		登二号	七研
森田 清			昭19.7.12		登二号	五研

旧陸軍登戸研究所関係年表

(事項のあとの数字は月日)

年代	元号	日本(と世界)の情勢	登戸研究所関係	陸軍中野学校・731部隊関係
1918	大正3	第一次世界大戦終結 11	陸軍技術本部設立 3 陸軍科学研究所設立 4	
1920	大正9	国際連盟に加入 1		石井四郎京都帝大医学部卒業 12
1922	大正11	ワシントン海軍軍縮条約 2		
1923	大正12	関東大震災 9.1		
1925	大正14	治安維持法公布 4		
1926	大正15	昭和と改元 12		
1927	昭和2		陸軍科学研究所第二部に秘密戦資材研究室開設 4 陸軍登戸研究所の開設 4	
1929	昭和4	世界恐慌 10		
1930	昭和5	ロンドン海軍軍縮条約 4		
1931	昭和6	柳条湖事件(満州事変)勃発 9	秘密戦資材研究室の拡充 9	石井四郎細菌戦部隊の設置を提唱
1932	昭和7	満州国建国 3 5.15事件 5		石井四郎を主幹とし「防疫研究室」が陸軍軍医学校に新設 石井四郎満州国において細菌戦の研究を始める
1933	昭和8	国際連盟脱退を通告 3		細菌戦研究が陸軍軍医学校の正式の研究原素となる
1936	昭和11	2.26事件 2	研究所の憲兵科学装備器材の研究・開発の完結と整備に伴い、国内憲兵司令部、関東軍憲兵司令部、中支総軍憲兵司令部に器材の補給を開始する 5	関東軍防疫部(石井部隊) 関東軍軍医防疫隊(若松部隊)編成 8
1937	昭和12	盧溝橋事件(日中戦争の始まり) 7 南京占領(南京大虐殺) 12	参謀本部第二部第八課新設(謀略・宣伝) 11 神奈川県橋本生田村(現川崎市多摩区東三田地区)の拓殖学校跡地に用地を確保、「登戸実験場」と命名 11 研究員の一部分が移転し、研究を開始する 12	
1938	昭和13	国家総動員法公布 4	種田登戸の拓殖学校跡地で、出張所建設にとりかかる	
1939	昭和14	ノモンハン事件 5 国民徴用令交付 7 第二次世界大戦勃発 9	陸軍科学研究所登戸出張所となる 4 陸軍登戸研究所第三科「法弊」の偽造を始める 8	中支防疫給水部(第1644部隊)編成 4 ノモンハン事件において細菌戦を展開 6
1940	昭和15	日独伊三国同盟締結 9 北部仏印に進駐 9 大政翼賛会発会 10	陸軍登戸研究所第三科ザンメル印刷機をドイツから購入 9 陸軍登戸研究所第一科、怪力光線研究開始	華中軍波において細菌戦 7 陸軍中野学校令制定 関東軍防疫給水部と改称 8
1941	昭和16	東条内閣成立 10 ハワイ真珠湾攻撃(太平洋戦争開始) 12.8	陸軍登戸研究所第二科所員、南京一六四四部隊(中支派遣軍中支防疫給水部)へ人体実験のための出張 5 陸軍登戸研究所所員、シンガポール、マレーシア、インドネシアに現地指導のための出張 5 陸軍技術本部組織改編により、本部機構と研究所に分かれる(陸軍科学研究所がなくなり第一研究所から第九研究所ができる、第十研究所は1942年設立) 6	常德において細菌戦 6 防疫給水部 部隊名改称 本部満州731部隊他 麗原機関設立

1942	昭和17	シンガポール占領 2 ミッドウェー海戦 6	陸海軍の協議による「決戦兵器考案二開スル作戦上の要望」作成 8 陸軍技術研究所設置 10 陸軍兵器行政本部設立 「陸軍登戸研究所、陸軍第九技術研究所となる、兵器行政本部の管轄下となるが、命令系統は参謀本部第二部第八課に直結」	ソ連国境で関東軍化学部と合同で青酸ガスに人体実験 4
1943	昭和18	アッツ島守備隊全滅 5 学徒出陣 12	陸軍兵器行政本部より、「ふ号」爆弾（風船爆弾）本格的な研究開始の命令下る 8 陸軍登戸研究所第二科所員、上海特務機関（中支憲兵隊？）へ人体実験のため出張 12	
1944	昭和19	サイパン島守備隊全滅 7 東京初空襲 11	陸軍登戸研究所地方疎開を決定 9 千葉県上総一宮より、風船爆弾がアメリカ本土に向けて放球される 11 千葉県上総一宮より、茨城県大津、福島県勿来より、風船爆弾がアメリカ本土に向けて放球される 11 陸軍登戸研究所、疎開を開始する「第一科と第四科の一部は兵庫県水上郡小川村、本部・第二科・第四科と第一科の一部は長野県上伊那地方、第三科は福井県坂井村へ疎開 11	石井式細菌爆弾完成
1945	昭和20	硫黄島守備隊全滅 3.1 東京大空襲 3.10 米軍沖縄上陸 4.1 広島に原爆投下 8.6 ソ連参戦 8.8 長崎に原爆投下 8.9 ポツダム宣言受諾 8.14 終戦の詔書放送 8.15	陸軍登戸研究所本部・第一科・第二科・第四科長野県上伊那地方に疎開完了 3 陸軍登戸研究所第一科草場少将他長野県北安曇郡に疎開（強力超短波の研究） 4 陸軍登戸研究所、陸軍省軍事課「特殊研究処理要領」により解体 8.15 陸軍登戸研究所、中津国民学校において解散式 8.16 GHQ、中津国民学校本部接收 10	陸軍中野学校群馬県に移転 3 陸軍省細菌兵器の増産を命令 3 ペスト防疫隊を大連衛生研究所に編入 6 本部を破壊 全員脱出 8.13 陸軍省軍事課「特殊研究処理要領」により解体 8.15